

令和6年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技 【結果速報】

試合 M06 2回戦

駆け上り夢の舞台へ 燃え上り若人の魂

【2024/8/17】

鹿児島南	13	[4 2 3 4	-	2 1 3 4]	10	福岡工業
				PSO				

審判1 佐伯 弘幸

審判2 山崎 昇

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	大庭 竜一	31	10	44%
GK13	山口 諒真	0	0	

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	長友 慶己	20	9	40%
GK13	東 慶次	7	4	20%

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	大庭 竜一			
2	篠原 修平	2		1
3	平川 歓大	1		2
4	牟田 翔樹	4	3	1
5	藤本 恵太	4	2	
6	揚野 悠聖	1	1	3
7	築瀬 亮冴	15	7	
8	江籠 蓮斗			
9	有村 颯晟			
10	石田 海斗			
11	宮本 郡志			
12	越智 稟斗			
GK13	山口 諒真			

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	長友 慶己			
2	中嶋 元陽	3	1	2
3	黒田 遼太郎	8	1	2
4	古田 龍聖			
5	井堀 結斗	10	3	2
6	中尾 洸太	1	1	2
7	大野 壱心	4	1	1
8	谷川 凜空			
9	松尾 太斗			
10	勝木 那由多	5	3	
11	高木 葉太			
12	行武 諒			
GK13	東 慶次			

令和6年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会

第92回日本高等学校選手権水泳競技大会
水球競技 リザルトWebサイト

<https://j-waterpolo.net/24OhitaIH/Index.html>



令和6年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
第92回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和6年8月17日（土）
会場：大分商業高等学校 水球プール

ゲームNo.

6

帽子の色 白

帽子の色 青

鹿児島南

1 3

4	-	2
2	-	1
3	-	3
4	-	4
PSO		

福岡工業

1 0

審判1：佐伯 弘幸

審判2：山崎 昇

戦評

九州ブロック第1位鹿児島県立鹿児島南高等学校と九州ブロック第3位福岡県立福岡工業高等学校の対戦。

第1ピリオド、白、鹿児島南からのセンターボールで試合開始。

青⑥中尾、退水を誘発するも、白②篠原のシュートブロックにより得点に繋がらない。白③平川のアシストを受け、④牟田がワンタッチシュートで得点。白⑦築瀬、ゴール前で退水を誘発し⑤揚野の得点。青⑤井堀、回し込みからミドルシュートを上隅に叩き込む。白⑦築瀬、ゴール前で得点。青⑥中尾、回し込みから得点。白⑦築瀬、カウンターから2得点目。青⑤井堀、ドライブから退水を誘発するも、GK①大庭が好セーブ。お互いにスピードを活かした攻撃を繰り出す中、鹿児島南がリードして1ピリオドを終える。

第2ピリオド、青⑤井堀、フリースローシュートで得点。白④牟田、右サイドから逆ポストコーナーにシュートを叩き込む。白④牟田、2人に囲まれながら回し込みで退水を誘発するも得点に繋がらない。青⑦大野、退水を誘発するもGK①大庭の好セーブにより得点に繋がらない。白④牟田、フリースローシュートから得点。互いのGK①大庭、青①長友がシュート決定機を好セーブにより阻むピリオドとなった。鹿児島南が3点をリードし、第3ピリオドを迎える。

第3ピリオド、青⑩勝木が見事なバックシュートを決める。白⑤藤本がゴール前でPFを誘発し、白⑦築瀬が得点。青⑩勝木、ゴール前でバックシュートを放ち2得点目。白⑥揚野、パスカットからカウンターを仕掛けるもGK⑬東の素早い飛び出しで失点を防ぐ。白④牟田、ゴール前で退水を誘発し⑤藤本が得点。青⑤井堀、フリースローシュートから3得点目。白③平川、退水を誘発するもGK⑬東がスーパーセーブにより得点に繋がらない。白②篠原、ゴール前で退水を誘発し⑥揚野がシュートを放ちゴールに突き刺す。青⑥中尾、退水を誘発するも白⑦築瀬のパスカットにより決定機を逃す。

第4ピリオド、青⑩勝木、ゴール前でPFを誘発し、②中嶋が得点。白⑦築瀬、PFを誘発するもポストに阻まれる。白⑦築瀬、ゴール前から振り向きざまにシュートを決める。青⑩勝木、ボールカットからシュートに持ち込み得点。2:1カウンターから白⑦築瀬、PFを誘発し得点。青②中嶋、退水を誘発し福岡工業T0。華麗なパス回しから、青⑦大野がゴール前で得点。白⑦築瀬、ゴール前で抑え込まれながらシュートを放ち得点。鹿児島南T0。白⑦築瀬、退水を誘発し得点。青⑩勝木、PFを誘発し③黒田得点。

鹿児島南は、第2ピリオドまでのリードをGK①大庭を中心に最後まで守り抜いた。福岡工業は、最終ピリオドまで点差を縮めるべく全員で泳ぎ、決定機を多く作ったが一步及ばなかった。

記録者

今崎哲也・柳川洋志・菅原剛